

令和7年度 府立聾学校 学校経営計画（スクールのマネジメントプラン）（計画段階・**実施段階**）

学校経営方針（中期経営目標）	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>＜学校目標＞                   *変更なし</p> <p>夢・可能性・生きぬく力</p> <p>＜教育目標＞                   *変更なし</p> <p>人と向き合い、社会とつながりながら自ら考え、伝え、行動する幼児及び児童生徒の育成</p> <p>(1) 夢と希望を持ち、自ら学び自らを高め、自らの未来を見通し切り拓く力を育む。</p> <p>(2) 高い志とユニバーサルな視野をもって、自らの能力や可能性を最大限に伸ばし、自分らしくこれからの社会づくりに貢献できる人間を育成する。</p> <p>(3) 目標を実現するため、失敗を恐れず挑戦しやり抜く意志と健康でたくましく生きる力を育む。</p> <p>(4) 礼儀と規律を重んじ、人を思いやり共に助け合い、人や社会と積極的に関わりながら共生する力を身につけ、次代を支える人間を育成する。</p> <p>(5) 自然や文化を学び、愛し、大切に作る心を育てる。</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器の利活用が普通の授業や発表の場、交流など、さまざまな場面で進んだ。</li> <li>学部を超えた指導体制の工夫により、指導の充実に取り組んだ。</li> <li>南部聴覚支援センターとの連携のもと、支援の充実や専門性の向上を図ることができた。</li> <li>避難訓練を具体的な想定のもと年3回実施できた。あわせて防災給食にも取り組んだ。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ICTの悉皆・選択研修や校内の研修などで教員の研修が進んだが、教員のICT活用のスキルや意識をさらに向上させるために研修等の機会を活用する。</li> <li>Teams等の活用による校務DX化を進め、働き方改革を一層進める。</li> <li>広報活動の発信方法や内容を研究・工夫し、より聾学校の魅力を発信する。</li> <li>教職員の専門性の向上について、新しい研究体制・研究テーマに沿って指導力向上を図りながら、あわせて教員同士のサポート体制を充実させる。</li> <li>アレルギー、医療的ケア等の対応を組織的に進める。</li> </ul>	<p>1 安心・安全な学校づくり                   追加・変更は下線部</p> <p>(1) 安心して学べる教育環境を維持し、様々な教育活動の展開</p> <p>(2) 避難訓練や防災・防犯学習、安全指導の計画的な取組及び連絡・連携の強化</p> <p>(3) 安心・安全な給食・舎食の実施や校内環境の整備</p> <p>2 魅力ある学校づくり</p> <p>R7 新しいこと、未知なことに挑戦できる力の育成 ⇒ “失敗 “を上手く乗り越える経験の蓄積（キャリア教育）</p> <p>(1) 可能性の追求 “挑戦する” 挑戦したい気持ちを引き出す、達成の過程を支援</p> <p>(2) 知識・技能の追求 “知る、学ぶ、教える” 指導方法、支援・手立てを磨く 言語力、考える力、伝える力の育成</p> <p>(3) 集団・学び合いの追求 “子どもが輝ける場” 集団と機会を創造する 個別最適・協働的な学び、本校の特色を活かす学び</p> <p>3 魅力の「発信」</p> <p>(1) ホームページ、新たにSNSに取り組む</p> <p>(2) 子どもの取組、本校の良さ・強みを伝える 子どもの挑戦、異年齢集団の学び合い、指導の専門性</p> <p>4 専門性の向上（研修・研鑽） 上述2に加えて、手話等の技術向上、発音・発語及び教育オーディオロジーに関する研修・研鑽</p> <p>5 地域支援センター（聴覚障害のあるお子さんへの相談支援）</p> <p>(1) 3つの聴覚支援センター（北部、本校、南部）の連携</p> <p>(2) 府南部地域の早期相談支援を教育へつなぐための連携</p> <p>(3) 指導者・支援者等へ、専門性向上のための研修・支援</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	成果と課題	
1 組織・運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校経営計画に基づいた組織的・計画的な学校運営を確立する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校経営計画の重点と連動した学部・分掌等の具体的な活動計画を策定する。</li> </ul>	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校だよりやホームページの他、SNSで取組を発信できた。</li> <li>衛生委員会の活動等によって、全体的に働き方改革に対する意識がさらに高まってきた。</li> <li>昨年度に続き、全校の会議や研修会を集合型で行い、グループ討議を設定するなど学部を越えて集まる機会をつくった。</li> <li>PTA総会と全校参観日を同一日に実施した。PTA役員会を年7回行い、活動を継続できた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き業務・行事を精選し、教職員が心身ともに健康で教育活動を進められるようにする。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページや学校だより、SNS等適切な方法で生徒等が能動的に活動する取組や部活動、PTA活動等を発信する。</li> </ul>	A	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の教職員が心身の健康を大切にし、チームとして実践できる職場環境をつくる。(業務の見直し、時間外勤務の縮減)</li> </ul>	B	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者、児童等から信頼される学校であるために教職員に対する必要な研修を行う。</li> </ul>	B	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者・PTAと一体となった学校づくりを進める。(PTAとの連携による全校参観日や保護者学習会等の計画)</li> </ul>	B	
2 教育課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科学習等における学部間の連携や指導体制の工夫に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学部間の連携や指導内容・方法の工夫などを意識して授業研究に取り組む。</li> </ul>	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育を全校研究テーマに、15年間を見通した指導を意識して教科等の指導を実施した。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後も幼児児童生徒の実態や諸条件を考えあわせ対応する。</li> <li>学部間の連続性をより意識して教育課程を編成する。特に学部替わりの時により生徒に合った教育課程を実施するために、学部間の動きを具体的に検討・実施していく。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>「キャリア発達をふまえた15年間の学びをつなぐ教育活動」の全校テーマのもと、各部・室が連携して教育課程の実施に取り組む。</li> </ul>	A	
3 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>「想像と創造」が見える授業改善に取り組む。</li> <li>伝えあい・学びあう学びを追求する。</li> <li>自立活動等の指導の充実を図る。</li> <li>ICT機器を積極・効果的に活用し、学習効果を高める。</li> <li>個に応じた教育を推進し、基礎学力の充実・向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教務部と各学部研究組織が連動して、全校研テーマを踏まえ、各学部の授業公開週間を実施して、評価・助言し合うことで指導の充実を図る。</li> </ul>	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全学部で授業公開週間を設定・実施し、研究テーマに沿った授業研究を実施できた。</li> <li>授業において小中学部でロイロノート、高等部を中心にTeamsの活用がさらに進んだ。</li> <li>ICTの利活用により協同的な学びの機会と、学びを発信する機会を提供した。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業改善に向けて、授業公開など開催方法や振り返りをより意図的に進める。</li> <li>授業等のねらいに沿ったICT機器の効果的な活用を進める。</li> <li>アセスメントを総合的に行い、効果的な支援につなげられるように発達検査の体制や関係部署、外部機関との連携を進める。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の授業において、多くを想像することと、仲間と対話しながら創造する学習や活動が見える授業について研究する。</li> </ul>	B	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業後の生活を見通し、キャリア教育の視点に立った学習指導・自立活動の指導を系統的に行う。(幼児児童生徒一人一人に応じたソーシャルスキルを考える)</li> <li>聴能言語室と学部との連携を推進する。</li> </ul>	B	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTの活用において、引き続き「個別最適な学び」と「協働的な学び」に基づく授業を行う。</li> </ul>	A	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>聴覚障害の状態とその他の障害や資質・能力・特性の適切なアセスメントにより指導の手立てを工夫し実践する。</li> <li>図書館の利用を促し、本、新聞、ネット等を活用して児童生徒の情報活用力・探究意欲を高める。</li> </ul>	B	
4 特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団や社会の一員としての資質を身につけた主体的・自主的な児童等の育成に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童会・生徒会活動を通して、児童等に自主性・主体性やリーダーシップなどが育つよう適切な指導や手立てを行う。</li> </ul>	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体育大会を昨年度の課題をもとに5月に開催した。短い期間の中でも児童生徒がリーダーとして活動する取組ができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き児童生徒が主体的に取り組める活動を進める。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>行事等において対話的な活動を取り入れ、人を思いやり助け合いながら、自主的意欲的に参加する力を高める。</li> </ul>	B	
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>望ましい人間関係の育成と個性の伸長に努め</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の可能性を信じ、憧れや目標を持たせながら失敗を恐れず挑戦し、失敗をうまく乗り越える経験を通して自己肯定感を高める。(思考・行動・再考・行動のサイ</li> </ul>	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学部で児童生徒の自己肯定感や達成感を意識した指導にチ</li> </ul>

生徒指導	る。	クル) ・非行や問題行動、いじめ、不登校など気になる情報を共有し、迅速かつ組織的な対応を行う。 ・「聴く」姿勢を大切に家庭等と連携する。必要に応じ関係分掌と緊密に連携する。			B B	ームで取り組み、成果を上げることができた。 【課題】 ・幼児児童生徒、保護者の受け止めに十分配慮して丁寧に対応する。
6 進路指導	・キャリア教育の視点を重視し、各段階でのキャリア発達を促す指導を推進する。	・資格取得など、必要な情報を幅広く収集整理し、取得推進を図る。 ・進路学習や職場体験を通して、「働きたい」と思う意欲を高める。 ・希望する進路の実現に向け勤労観・職業観等の指導を計画的・系統的に行う。 ・進路状況の変化に対応した指導とアフターケアの充実を図る。 ・卒業後の自立と社会参加の姿を見通した指導のための全校研修会に取り組み、共通理解を図る(1回/年)。			B B B	【成果】 ・実習等を家庭、関係機関等との連携により実施した。全校研修も行き、全校で共通理解をしながら進めることができた。 【課題】 ・引き続き卒業生の就労や生活の状況の把握、進路指導の課題等について全校で研修する。
7 人権教育	・人権問題を正しく理解し、解決に向けて行動できる力を育てる。	・教職員一人ひとりの人権意識を高め、人権教育の推進に向け校内研修を行う。(1回) ・人権に関する教材づくりに取り組み、児童等の実態に応じた人権学習を年間指導計画に基づき実施する。			B B B	【成果】 ・全校研修会で、京都府や国全体の人権に関わる諸課題や取り組み視点を学んだ。 【課題】 ・引き続き人権に配慮した指導を普段から意識して進める。
8 健康・安全教育	・児童等の心身の健康状態を把握し、その保持増進を図る。 ・児童等の実態に応じて健康・安全教育を進める。 ・児童等の実態に応じて食育を進める。	・学校保健計画に基づき、定期健康診断・保健調査及び日々の健康観察を充実させ心身の健康状況を的確に把握する。(未受診者、健康状況が気になる者の家庭連絡等) ・医療専門職派遣事業を活用した障害や特性、疾病等に関する研修に取り組み、適切に対応する力を高める。 ・保健指導及び保健学習を通じて心身の健康に関する認識を高め、家庭と連携しながら基本的生活習慣の定着を図る。 ・年齢及び発達の段階に応じて、性に関する知識の学習を計画的に行う。 ・アレルギーの実態を把握しアレルギーに関する知識を学習し、正しい判断力と行動力を養う取組を進める。(全校研1回、緊急時対応訓練1回) ・食に関する指導の全体計画の下に各学部が取り組み望ましい食生活の形成を促す。			A B B B B	【成果】 ・校医の協力を得て感染症対策を行い、計画どおりに健康診断等を実施することができた。 ・各学部において、医療専門職派遣事業を活用した研修に取り組み、日々の指導や保護者との連携に生かすことができた。 ・精神科学校医、スクールカウンセラーの活用により、子ども・保護者の安心につながる機会を提供できた。 【課題】 ・引き続き校内委員会を中心に、アレルギー、医療的ケアなどの対応と準備を進める。
9 研究・研修	・専門性と教育的指導力の向上を図る。	・自らを高めるためにセンター研修等、各種研究会を積極的に活用する。併せて校内の新たな研究・研修体制のもと研究を進める。 ・手話や発音・発語や教育オーディオロジーに関する研修会を開催し、新転任者等の専門性や指導力の向上に取り組む。			B B B	【成果】 ・引き続き開催方法を工夫し校内の手話研修や聴能研修に取り組めた。 ・研究研修部を立ち上げ、全校研究テーマを設定して研究・研修活動を進めた。 【課題】 ・専門性を高めるため、センター研修や各種研修に積極的に参加する。
10 学習環境	・学習環境の整備に努める。	・計画的な予算執行の下、学習に必要な施設や機器の整備を行う。			B B	【成果】 ・ICT機器の適切な配備、施設設備の修繕・新調など教育環境の整備が進んだ。 【課題】 ・Teamsをさらに活用して、会議等積極的にペーパーレス化し教育予算を確保する。備品の要望段階、予算執行段階ともに情報共有を進める。
11	・危機管理システムの整備充実と活用力をつけ	・防災、火災及び地震等の避難訓練(学期に1回程度)、救命救急訓練、土砂災害緊急避難訓練、防犯訓練を実施する。			A	【成果】 ・火災や地震など場面を想定して、学期に1回避難訓練や初期

危機管理	る。	・危機管理マニュアルに基づく実践力を身につけるために初期消火訓練を実施する。	B	B	消火訓練を実施した。また、教員向け防犯講習を実施した。 ・情報担当を中心に、情報セキュリティの対応と都度の注意喚起を進めた。 【課題】 ・登下校の安全について、保護者に適切に情報提供をする。 ・個人情報の取り扱いについて、児童生徒、教職員、保護者等の情報モラルとセキュリティに関する意識を引き続き向上させる。
		・安全点検を行い、校内の安全を確保する。(毎月)	B		
		・家庭・地域社会と連携し、登下校の安全を確保する。	B		
		・個人情報の取扱いやセキュリティー等への理解を深め、適切に対応する。	B		
12 家庭・地域社会との連携	・学校運営協議会やPTAとの連携した教育活動の充実と地域と連携、共同した取組の具体化を図る。	・一人一人の教育的ニーズに対応できるよう関係機関との連携を深める。	B	B	【成果】 ・直接的な交流及び共同学習と、オンラインの交流を併用して充実させることができた。 【課題】 ・学校運営協議会とPTAの連携で、各方面から講師を招き学習会を計画する。
		・近隣園・校や居住地園・校との交流及び共同学習や、地域での体験学習をとおして幼児児童生徒の学びの場や機会を広げる。	B		
13 センター的機能	・特別支援教育に関する情報提供と各学校等の支援力、家庭の支援力を高める。	・乳幼児児童生徒に対して早期教育・進路相談などの適切な支援を行う。	B	B	【成果】 ・南部センターと連携し教育相談等地域への支援を進めた。 ・地域で学ぶ聴覚障害児童の集いとして「地域学校」を開催し、本校生徒も参画して工夫して取り組んだ。 ・引き続き関係諸機関とのカンファレンスの開催や日々の連携で、支援の充実や専門性の向上を図ることができた。 ・公開講座を実施し、日常の指導等の情報交換ができた。 【課題】 ・引き続き本校と南部センターの円滑な連携を進める。
		・北部・本校・南部の3つのセンターの連携を強化し、支援・相談、研修会の充実・発展をめざす。	A		
		・聴覚障害教育に関する情報、啓発活動及び教材の提供等を行う。	B		
		・医療・福祉・教育等の関係諸機関と地域連携協議会や合同研究会を行う。	B		

学校関係者 評価委員会 による評価	<p>HP等には高等部卒業生の進路先が公開されていて、中学部卒業生のことは公開されず、高校や他県へ進学したら京甞卒業生の進路として計上されない。中学部までの卒業生「本校で育った」とアピールしてよいと思う。</p> <p>学んだことを発信する機会が各学部であることはよいと思う。学校経営計画の中に特長的な取組を評価するところがなく、全体として評価する中には出てこない。評価の仕方を工夫してはどうか。</p> <p>職員の異動があっても手話を必要とする子どもたちの教育保障が適切に進められるように取り組んでほしい。</p>
-------------------------	---

次年度に 向けた改善の 方向性	<p><b>&lt;学校づくり&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 引き続き健康・安全・安心を第一に、教育効果を考えた教育活動を計画・実行を進める。</li> <li>○ 避難訓練などの防災学習、不審者対応など、日々の安全指導をより一層意識的に取り組む。非常時に備え地域との連絡・連携を再確認する。</li> <li>○ 「働き方改革」を校務DX化とともに一層進め、業務分担等の見直しを行う。伴って校内ネットワーク担当者の育成を継続する。</li> <li>○ 幼稚部から高等部までを通して、個に応じた情報保障と個別最適な指導と支援をさらに進める。</li> </ul> <p><b>&lt;授業改善&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全校の研修と、全校テーマに沿って各部署での研究を計画的に進める。</li> <li>○ 自立活動の指導を学校全体として系統的に行うための校内の連携、研究・研修を進める。</li> <li>○ 手話や教育オーディオロジーをはじめとした専門研修を計画的に実施し、学校全体としての専門性の維持・向上に取り組む。</li> </ul> <p><b>&lt;襲撃学校の魅力の発信&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保護者や地域等の評価も踏まえて、従来のホームページや学校紹介パンフレット、学校紹介動画の充実に加えて、新たな発信方法の拡充を検討する。</li> </ul> <p><b>&lt;センター的機能&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 引き続き南部センターとの協働により、保護者や地域のニーズに応える継続的な教育相談や啓発活動に取り組む。</li> <li>○ 地域支援に関わる担当者の育成を進める。</li> </ul>
-----------------------	--